



廃校備品を地域資源に

降旗 太地（久比岐野）



Q 廃校に残された机や椅子、楽器などの備品には、まだ使用可能なものが多く、統廃合が進む中、こうした備品が使われないまま保管・廃棄されることを「もったいない」と感じる市民の声がある。現在の管理方法と活用状況、今後の再活用や譲渡に対する考え方を聞きたい。

A 廃校備品を台帳と写真で管理し、まずは他校での活用を優先している。一定期間活用されない場合は公共施設への転用を行っており、条例や規則に基づき適切に管理している。なお、貸付や譲渡の明確な基準は定めておらず、状況に応じて判断している。今後も教育現場での活用を基本としつつ、適切な管理に努める。



こどもセンターの人材と地域連携

Q 市長公約のこどもセンター設置は、施設整備だけでなく、人材や地域との連携が重要と考える。運営体制や市民活動団体、地域クラブとの関わり方を聞きたい。

A 子どもの遊びや子育て相談、世代間交流の場として整備する。運営は住民組織などの地域団体の参画を想定しており、市民活動団体や地域クラブとの協働については、具体的な活動内容を定めていく中で検討の参考とする。



知事の原因再稼働容認の見解と安全確保

山本 佳洋（市民クラブ）



Q 知事の判断を尊重するとしたが、前市長の慎重な姿勢を変更したものと認識してよいのか。

A 市の考え方は、国のエネルギー政策を考慮し、安全性の確保を大前提に原発の活用はやむを得ないとする見解で、従前から変更はない。

Q 県の被ばく線量シミュレーションは、安全対策が機能した場合を想定したものだが、「新たな安全神話」につながる懸念はないのか。

A このシミュレーションは福島第一原発事故を踏まえ、原子力規制委員会が策定した安全対策が機能した場合を前提に、放射線の影響の範囲を予測したものであり、事態の想定の適否や示された見解は専門的知見に基づくため、知見を持たない市が評価することはできない。

Q 県民意識調査では、市民の過半数が再稼働や東京電力への信頼性に否定的である。知事との意見交換でどのような意見を伝えたいか。

A 避難計画に関する理解促進と原子力防災体制の充実・強化及び原発の安全審査と電力事業者の監視の徹底を強く求めた。

Q 知事の判断を尊重するだけでなく、市民の不安の声などに対し明確な立場を示すべきでは。

A 前市長の時から市民の声に対応してきた。知事に求めた避難計画の理解促進などは、再稼働の前提となる確認事項に含まれており、声を軽視していない。今後も市民の声に対応する。



手つかずの観光資源、上越独自の観光とは？

小林 和孝（市民クラブ）



Q 市長は、手つかずの観光資源を磨き上げ、上越独自の観光を展開するとしているが、具体的にどのようなものか。

A 上越市には、雪、花、山、川、海、そして歴史や美味しい食、温かな人情等、日本の美しさと魅力が凝縮していると感じる。「手つかずの観光資源」や「独自の観光」と表現したのは、当市の様々な魅力が市外の方々に十分に伝わっていないと感じていたからである。これからの観光には、身近な資源をそこに息づく歴史や時の流れと重ね合わせ、関心と共感を呼び込むような当市ならではの物語として発信していくことが大切であると考えている。

謙信公生誕500年に向けた取組を！

Q 謙信公生誕500年などの節目は、地域資源の磨き上げや上越市民としての誇りを醸成するためには逃してはならない機会であるが、どのように考えているか。

A 上杉謙信公の節目に関する取組は、令和8年度の予算編成の中で、関係部局と協議を行いながら方針を検討していきたい。

